



いずみ

令和2年7月1日発行

〈学校の教育目標〉

かしこい子
やさしい子
たくましい子

「**チーム和泉**」

(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <<http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>>

校長 伊藤 栄司

自然災害としての感染症

校長 伊藤 栄司

分散登校が終わり、学校生活も元に戻りつつあります。三密を避ける行動様式はこれからも継続していきませんが、少しずつ緩めながらコロナウイルスとの共存の道を探っていきます。東京都では「ウイズコロナ」のフレーズも出されています。感染症の歴史を振り返りながらこれからの過ごし方について考えてみました。

狛江市感染症の歴史

新狛江市史所収の「狛江村事務報告」(※1)によると明治45年には感染症予防のため小学校が7週間の休校になった記録が残っています。また、大正4年度にはジフテリアと腸チフスの患者が発生し、大正7年度には感染症により亡くなる人も確認されています。記録には「伝染病予防ニ就イテハ常ニ深甚ナル注意ヲ払ヒ居ルニ、大都市ト往復頻繁ナル本村ノ如キ如何ナル経路ヨリカ患者ヲ出ダシタルハ、最モ遺憾堪エザルナリ」と書かれています。ウイルスの存在がまだ知られていなかった時代ですが、東京市との移動が活性化したことに伝染病発生の一因を求めています。また、「各自一層ノ注意ヲ要ス」とも書かれており、「伝染病予防心得」には清潔を保つために消毒することの大切さが記されています。100年ほど前の資料ですが、大勢の人が密になる状態を避けることや清潔を保つことは今回の新型コロナウイルス対策とほとんど変わりません。

感染症と地震

感染症の流行と大地震はよく似ているといわれています。周期的に発生することは分かっているけど、どこで発生するか誰にもわかりません。また、大地震を体験するとしばらくは用心していても、次第に恐怖は薄まり備えがおろそかになるところも同じです。100年前に苦労したことが、今回、感染が広がるまで活かされなかったことはとても残念です。

生物災害としての感染症

世界で広く使われている災害統計「国際災害データベース」によると、「自然災害」は、洪水や暴風雨等の「気象災害」、地震や土砂崩れ等の「地質災害」、病気や病虫害の「生物災害」に分類されています。(※2) 感染症の拡大は「生物災害」に分類されます。今回のコロナウイルス感染に関して、災害級との表現は聞きましたが災害として扱う専門家の声はあまり聞かれませんでした。

「生物災害」として意識すると、学校では地震や風水害への備えと同じように、定期的に訓練や学習を教育課程に組み込む必要があります。例えば、年に1度、全員マスク着用週間を設けたり、分散登校を行いソーシャルディスタンスについて学んだりする訓練です。繰り返し実施することで、迅速に行動することをねらいます。また、「いつかは来る」と時々思い出し意識することも大切です。今回の苦い経験を二度と繰り返さないためにできることを考え実施していきます。

※1「新狛江市史 資料編 近現代3」より 狛江市史編集専門委員会

※2「感染症の歴史」より 石弘之著 角川ソフィア文庫

7月・8月の主な学校行事

1日(水) 安全指導日・交通立ち番・計測6年
2日(木) 計測5年
3日(金) 計測4年・交通立ち番
6日(月) 放送朝会・計測3年・委員会
7日(火) 計測2年・避難訓練
8日(水) 計測1年
13日(月) 放送朝会・視力検査6年 クラブ
14日(火) 視力検査5年
15日(水) 視力検査4年

16日(木) 視力検査3年
17日(金) 視力検査2年
20日(月) 放送朝会 視力検査1年
27日(月) 放送朝会
30日(木) 給食終・大掃除
31日(金) 終業式・午前授業
8月24日(月) 始業式・午前授業
25日(火) 4時間授業・給食開始